

公益財団法人

日本世論調査協会 2018年度研究大会

日時：平成30年11月9日（金） 10:00～16:50

会場：同志社大学東京サテライトキャンパス・セミナー室

（東京都中央区京橋 2-7-19 京橋イーストビル 3階 地下鉄銀座線京橋駅下車1分
有楽町線銀座一丁目駅、都営浅草線宝町駅、JR 東京駅[八重洲南口]も利用可能）

〔研究大会プログラム〕

（9:30開場）

10:00～10:10 開会・会長挨拶

第一部 研究報告 （10:10～12:15）

- 10:10～10:35 ユニバーサルデザイン理解・浸透度定点観測調査
～「障害の社会モデル」は日本社会にどこまで浸透しているか～
石井 美砂（日本リサーチセンター）
- 10:35～11:00 高校3年生の政治意識とメディア接触（利用）について
田中 智和（上宮高等学校・関西大学）
- 11:00～11:25 読売新聞と米ギャラップ社による日米共同世論調査（仮）
—デュアルフレーム調査の日米比較— 福田 昌史（読売新聞社）
- 11:25～11:50 RDD電話調査における回答率の考察
～朝日新聞社全国RDD電話調査の結果から 齋藤 恭之（朝日新聞社）
- 11:50～12:15 社会調査データに基づく特殊詐欺脆弱性判定の試み
澁谷 泰秀（青森大学）

第二部 シンポジウム「次世代の世論調査を探る」 （13:30～16:50）

講演（13:30～14:10）

「ビッグデータ活用による合理的な政策形成は可能か？（仮題）」

曾根原 登（津田塾大学教授・国立情報学研究所名誉教授）

報告（14:10～15:10）

- 1 社会データ利活用とプライバシー・個人情報保護における法的課題に関する検討
田中 康裕（社会データ構造化センター）
- 2 SNSデータから「有権者の本音」を推論出来るか？—2017年総選挙の事例—[英語発表]
ロバート・ファーヒ（早稲田大学大学院）
- 3 RDIT（Random Domain Intercept Technology）による調査の可能性
岸田 典子（クロスマーケティング）

討論 (15:10~16:50)

「ビッグデータ時代の世論調査の可能性」

司会=吉野 諒三 (社会データ構造化センター)

出席 曾根原 登 (津田塾大学)

小林 学 (早稲田大学データ科学総合研究教育センター)

岸田 典子 (クロスマーケティング)

鈴木 督久 (日経リサーチ)

堀江 浩 (朝日新聞社)

(敬称略)

※研究大会への参加は無料です。会員以外の参加も受け付けています。

(できるだけ事前に事務局へお申し込み下さい)

【懇親会】 (会場ビルの向かい・京橋エドグラン地下1階 「京橋モルチェ」)

17:15~19:15 (会費:4000円)

【大会会場の案内図】→<https://tokyo-office.doshisha.ac.jp/access/map.html> (同志社大学HP)

【京橋モルチェの案内図】→<https://www.edogrand.tokyo/shop/floor-map> (京橋エドグランHP)